



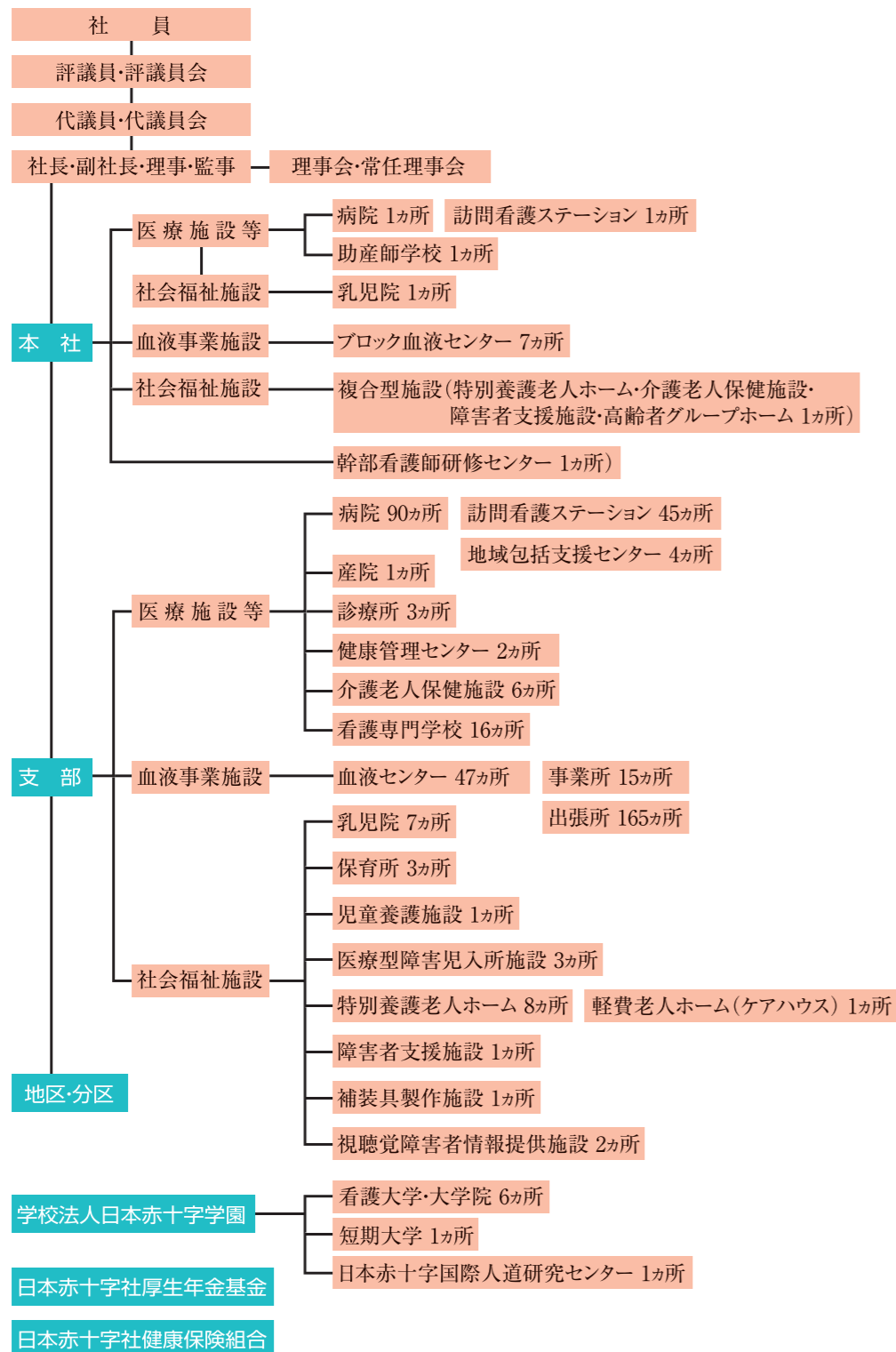
CHAPTER 1

第1章

平成28年熊本地震に対する
日本赤十字社の対応

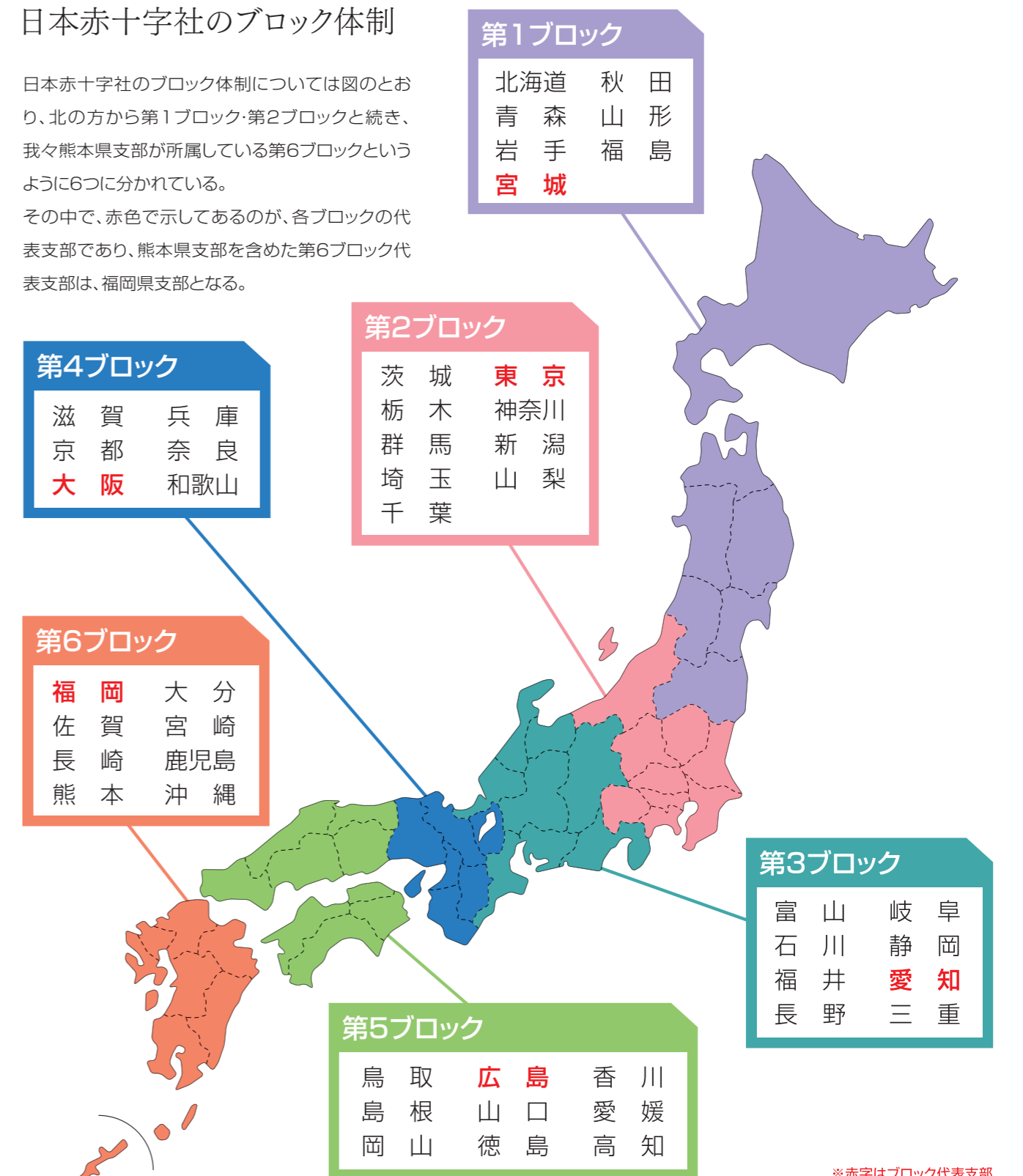
日本赤十字社の備え

日本赤十字社の組織



日本赤十字社のブロック体制

日本赤十字社のブロック体制については図のとおり、北の方から第1ブロック・第2ブロックと続き、我々熊本県支部が所属している第6ブロックというように6つに分かれている。
 その中で、赤色で示してあるのが、各ブロックの代表支部であり、熊本県支部を含めた第6ブロック代表支部は、福岡県支部となる。



※赤字はブロック代表支部

日本赤十字社の災害救護リソース

平成29年3月31日現在

職員	67,659名
病院	92病院(61災害拠点病院)
常備救護班	505班 7,818名
日本DMAT隊員養成	150チーム 1,021名(本社・支部職員を含む)
救護車両	1,384台(内救急車:227台)
医療セット	273セット
エアテント	178張
テント	5,278張
発電機	1,391台
衛星電話	523台
無線局	3,424局(150MHz帯1波、400MHz帯1波) 日本赤十字社専用周波数帯(基地局・陸上移動局・携帯基地局・携帯局)



熊本地震で全国から集結した救護車両(熊本県支部駐車場)

日本赤十字社の救援物資の備蓄

毛布	388,856枚
緊急セット	115,282セット
安眠セット	46,415セット
タオル・バスタオル	84,826枚

平成29年3月31日現在



安眠セット



毛布



緊急セット



日本赤十字社熊本県支部の災害救助物資保管倉庫

熊本地震に対する体制と活動

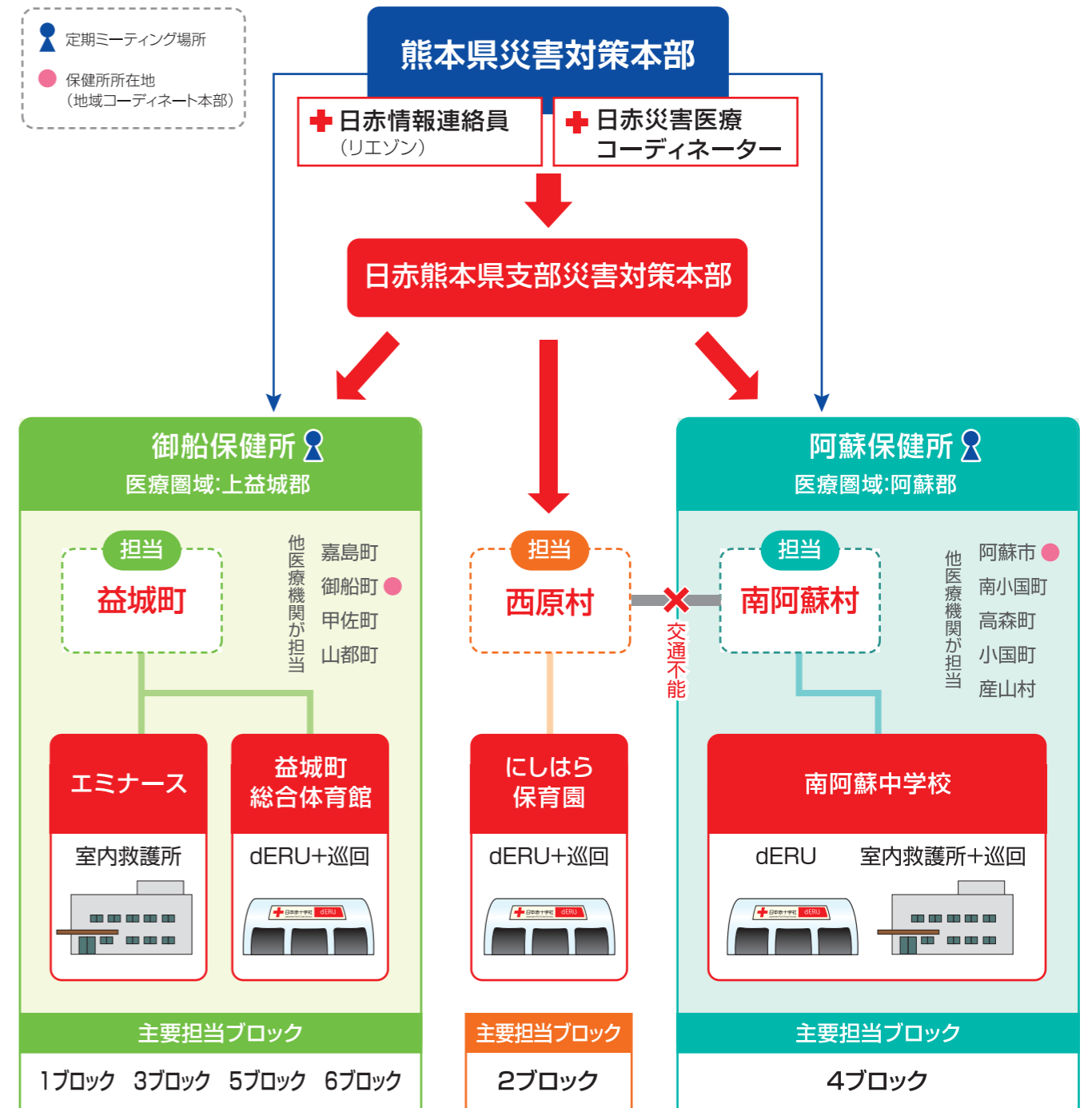
救護活動の概要

活動内容	発災～	2週間～	4週間(1ヶ月)～	6週間(5月末)～	7週間(6月)～
			250カ所、11,000人 医療ニーズは減少	自宅の修理、仮設住宅 の建設・確保等	
医療救護 益城町、西原村、 南阿蘇村を中心に活動	日赤救護班：～6月2日 最大25班が活動(4月17日時点)			地元医療機関 (JMAT含む)	連携
こころのケア 支援者支援・被災者支援	連携	こころのケアチーム：～6月13日			連携
避難所の健康支援活動		連携 連携	専従班等：4月30日から準備、6月9日から活動		
ボランティア	支部災対支援ボランティア等				
熊本赤十字病院支援		医師、看護師、事務職員等を派遣：～6月5日			
熊本県支部支援	本社及び支部職員を派遣：～6月4日				
広報支援	本社及び支部職員を派遣：～5月16日				
義援金	4月15日(大分県は4月22日)から受付中				
救援物資	各ブロックより支援				
血液			5月10日血液センター内ルーム、5月16日移動採血を再開		

上記は日赤の救護活動の全体像である。震災当日の4月14日から救護活動を開始し、医療救護、こころのケア、ボランティア、義援金、救援物資、血液製剤の供給などを行った。日赤救護班を主体とした医療救護は、超急性期から活動を開始し、全国から救護班を派遣して4月17日には最大25班(約200名)が医療救護活動を実施した。現地における医療救護ニーズは徐々に減少し、6月2日に、地元医療機関へ円滑に引き継ぎを行った。医療救護と連携した「こころのケア」も大切な活動であり、被災者のみならず役場職員も対象に活動した。現地のニーズは、当初の医療救護から次第に保健衛生の分野へと移行したため、活動も避難所での健康支援事業にシフトして被災者支援を行った。



救護活動体制及び活動地域



行政側の熊本県災害対策本部では、保健所を中心に医療圏域を立ち上げており、日赤は熊本県災害対策本部や他の医療機関との調整の結果、御船保健所と阿蘇保健所の圏域の一部を担当することとなった。これらの地域は平時の際の熊本赤十字病院の医療圏でもある。

仮設診療所(dERU)チームを含む210班が活動

救護班派遣体制

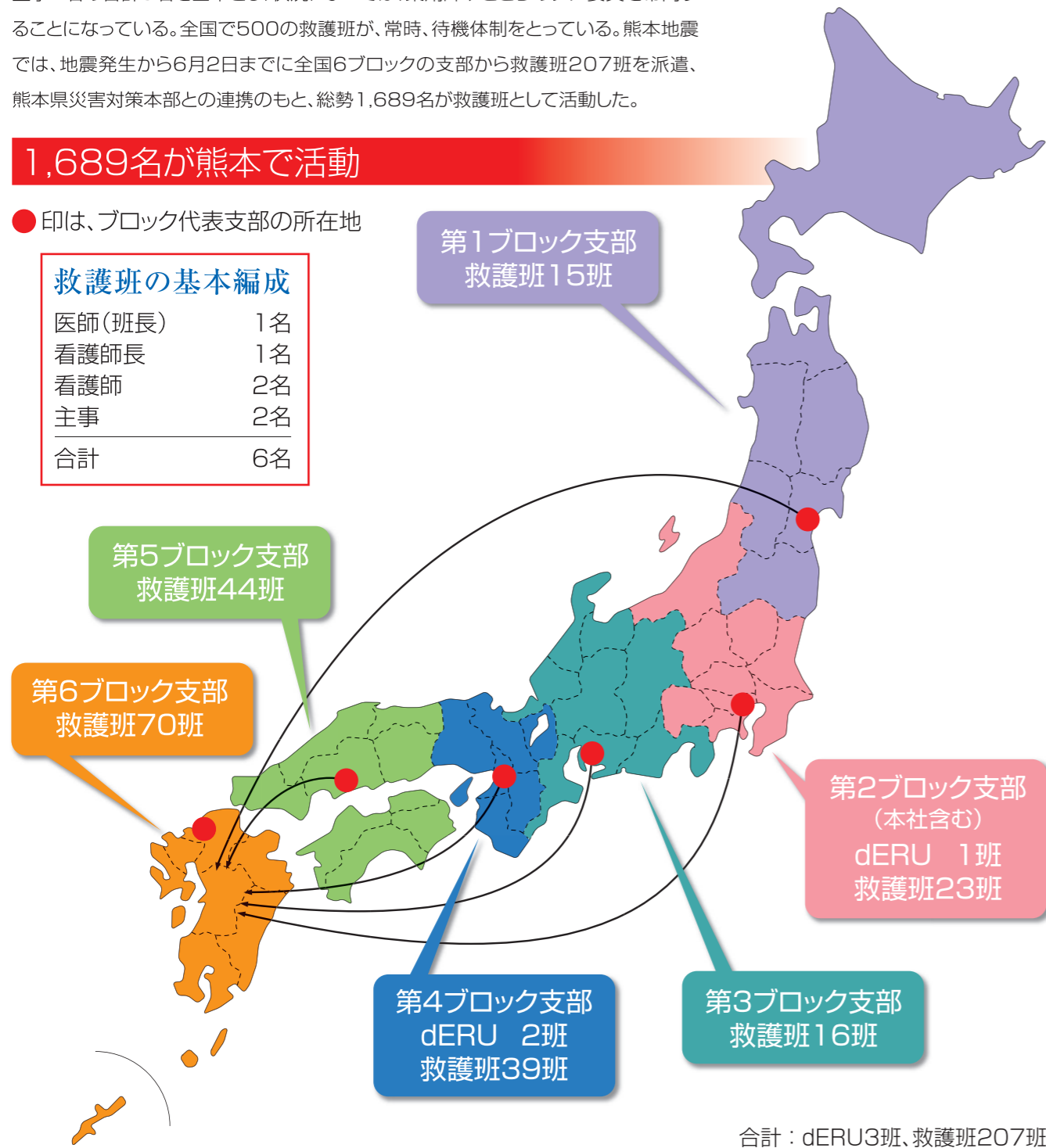
災害時に医療救護活動を行う救護班の基本編成は、医師1名、看護師3名、事務職の主事2名の合計6名を基本とし、状況によっては、薬剤師やこころのケア要員を帯同することになっている。全国で500の救護班が、常時、待機体制をとっている。熊本地震では、地震発生から6月2日までに全国6ブロックの支部から救護班207班を派遣、熊本県災害対策本部との連携のもと、総勢1,689名が救護班として活動した。

1,689名が熊本で活動

●印は、ブロック代表支部の所在地

救護班の基本編成

医師(班長)	1名
看護師長	1名
看護師	2名
主事	2名
合計	6名



派遣数データ

医療コーディネーター：20名

救護班：1,689名

こころのケアチーム：149名

各種ボランティア：261名

本部要員：93名

医療支援・災害支援数データ

取り扱い患者数：6,944人

支援車両：311台

●救援物資(全国からの拠出数)

緊急セット：654セット

安眠セット：7,551セット

毛布：22,480枚

ブルーシート：11,230枚

タオルケット：3,904枚



東京都支部救護班第1班出発式(4月16日 武蔵野赤十字病院)



長野県赤十字救護隊による安眠セットの搬出(4月20日 長野県支部)



広島県支部救護班第3班出発式(4月18日 広島赤十字・原爆病院)



大阪府支部の救援物資を積み込む職員(4月20日 高槻赤十字病院)